中学校の修学旅行
——最新リポート

社会や自然と向き合う中で

修学旅行の経験を通し教育理念を肌で感じる

私立 相愛中学校
沖縄本島・宮古島　3泊4日
10年5月　実施

ひめゆり平和祈念資料館の見学

山川誠教諭

相愛中学校は、西本願っせつむりょうじゅきょう寺第21代明如上人により1888年（明治21年）に設立された相愛女学校に起源を持つ、大阪の女子中学校。中学から大学までの一貫教育で、「相愛」の校名は「自他ともに仏の子供である。まさに相敬愛すべし」という大乗仏教の代表的な経典である仏説無量寿経（ぶっせつむりょうじゅきょう）の一節によるもの。自らを愛し、他人を愛する精神を培うことは同校の教育理念。その教育理念は修学旅行でも実践されている。

「普段から礼儀作法の指導に力を入れている。公衆道徳を守るのは、他者を大事にすることの基本。修学旅行は公衆道徳を学べる良い機会だ」と山川誠教諭。「飛行機に乗る機会も多かったので、社会でのルールやマナーについては、旅行前に厳しく指導した」と説明する。修学旅行中も毎日、入浴後にミーティングの時間を設け、良かったこと、悪かったこと、あいさつやマナーの改善点について1時間話し合われる。

今年5月に実施された中学3年生の修学旅行の行き先は沖縄本島と宮古島。

公衆道徳について指導も行われる（関西空港）

行き先を沖縄に選んだのは、雄大な自然を体験できることと、平和学習を通じて生命の尊さを学べるからだ。また、宮古島は離島なので、手つかずの自然が残っていることや、世界では例を見ない地下ダムがあり、自然と共存する島の歴史を学べるためだ。

1日目は平和学習に充てた。ひめゆり平和祈念資料館、平和祈念公園を訪れた。

ひめゆり平和祈念資料館では、同じ年頃の学生が戦争に巻き込まれていく過程が分かる展示や学生が看護要員として配置された戦場の病院壕を再現したジオラマ、犠牲者200人余りの遺影などの展示を見た。生徒らは戦争の悲惨さや、残酷な事実を知り、ショックを受けているようだった。同校の教育理念である「自分を愛し他人を愛する心」を普段から意識している。毎朝教室では礼拝の時間もある。施設の見学後、生徒は犠牲者の死を重く受け止め、平和への願いをより深めた。

本島で首里城を見学

同校では中学から高校の6年の間、毎年、ホームルームの時間のうち、4、5時間を人権学習の時間としている。修学旅行後からは事後学習の一環として、人権学習の時間でも平和学習が始まった。沖縄戦の記録映像や資料を使った授業が行われ、生徒は実際に現地で見てきたことを改めて確認する。現地を訪れているので、平和学習に対する生徒の関心は高い。修学旅行での平和学習を普段の授業で深めている。

2日目は午前中に美ら海水族館を見学。午後からは宮古島へ移動。最初に宮古空港に近い、遊歩道や展望デッキ、案内板などが整備されているマングローブ林「川満マングローブ」を見学した。

3日目は、保良泉（ぼらがー）ビーチでシュノーケリングとシーカヤックを体験した。保良泉ビーチは断崖に囲まれた美しいビーチ。宮古島は山と川がないので海の透明度が高い。同ビーチの海水も透き通るように美しい。本島に比べて人もあまり来ないので砂浜が元の白さのままで残っている。シュノーケリングでは、熱帯魚やサンゴ礁など美しい海の生物を間近で見ようと生徒は夢中で泳ぎ回っていた。

宮古島でシーカヤック

シーカヤックは2人乗りのものを使用した。学校の狙いとして、ペア同士で協力し、相手を思いやりながら目的を達成するスポーツを実践させたかったからだ。その狙い通り、友達と力を合わせて練習し、方向転換など上手くコントロールできるようになると、それまでの苦労以上に大きな喜びを得ていたようだ。

その後、宮古島の歴史を知る目的で、地下ダムを見学。宮古島はサンゴ礁が隆起してできた島で、非常に透水性の高い琉球石灰岩から成るため、水を蓄えられず水が乏しかった。それを解決しようと1979年に造られたのが地下ダムだ。

その地下ダムを見学し、ガイドの説明から、水が不足しがちだった頃の状況や水が豊かになり暮らしが変わったことなどを知った。自然を大切にすることは、「教育理念である『他者を大事にする』につながる」と同校。他者である周辺の人々のことを考えれば、街をきれいにしよう、自然を守ろうという気持ちになってくれるはずだ。

4日目は、宮古島から再び那覇空港へ移動。那覇市内では、世界遺産の首里城や識名園を散策。首里城は沖縄の歴史、文化を象徴する城。識名園は、琉球王の最大の別邸で、国王一族の保養や中国皇帝の使者である冊封史（さっぽうし）の接待にも利用された。この2施設では、琉球の建築文化や美術工芸などを興味深く見学した。

見学後、那覇空港から帰阪した。

山川教諭は「最近の生徒は10数年前と比べて個人主義が進んで、他人と長い時間を一緒に過ごすことが難しくなっている」と指摘する。修学旅行は、そんな生徒にとって団体生活を体験できる数少ない機会。「普通の旅行と違い『友達がいること』『学ぶこと』が大きな要素だ。社会のルールや人間関係をつくる上で大切な『他者を思う心』をしっかりと学んでほしい」と意図している。

民泊や体験によって人との触れ合いを学習

神戸市立 神戸生田中学校
熊本県天草方面　2泊3日
10年5月　実施

コミュニケーション力も養った民泊体験

冨井洋教諭

神戸の中心に位置する神戸市立神戸生田中学校。周辺には神戸港、北野異人館、兵庫県庁などがある。

同校の修学旅行は、ここ数年、体験プログラムを重視する。コミュニケーションを苦手とする生徒が多いことから、人とのふれあいや共同作業などを内容に多く取り入れ、コミュニケーション能力の向上を目的にしている。

また、修学旅行に参加する3年生は昨年、猛威を振るった新型インフルエンザの影響で2泊3日の野外活動に多くの生徒が参加できなかった。さらに現地でもインフルエンザの症状を訴える生徒が多く出たため、急きょプログラムを打ち切り2日目に帰校することになった。メーンプログラムの海洋実習のカリキュラムを実施せずに終わったため、今回の修学旅行では海洋実習を改めて実施することにした。

行程は初日に、新神戸駅から新幹線で博多駅に移動。博多駅からはバスで最初の体験プログラムを行う熊本県の芦北地域に向かった。芦北地域では交流体験学習「うたせ船漁」を実施した。

うたせ船漁は、不知火海の漁師特有の伝統漁法。大きな帆を張った船で、自然の風と潮の流れを動力に底引き網で漁を行う。その体験学習では、船上で漁師からうたせ船や漁の方法について説明を聞きながら、帆が張られるところや底引き網で魚を捕る様子を見学。網に掛かったエビを漁師がその場でさばいてくれ、生徒たちで分け合って食べた。

人間とイルカとの共生を考える

天草の海でペーロン競争を体験

うたせ船で体験と移動

うたせ船漁の網を引き上げるまでの間は、船上で太刀魚釣りを行う。生徒全員が太刀魚を釣ることはできなかったが、何人かの生徒は大物の太刀魚を釣り上げた。

行程で工夫した点があった。うたせ船に乗ったまま次の目的地である天草の御所浦島に移動。このため、移動時間の短縮と移動に掛かる経費の節約が図れた。

修学旅行の企画にかかわった冨井洋教諭は「限られた時間、限られた予算をいかに有効に生かすかが修学旅行の大きな課題だ。芦北町と天草市では漁協も体験プログラムの窓口も異なるので、うたせ船で移動するだけといっても簡単なことではない。学校の要望をとらえて、旅行会社にはよくがんばってもらえた」と明かす。

天草の御所浦島では、班に分かれて農家や漁師の家などに民泊。夕食までの時間にホストファミリーの案内で魚釣りをした班もあった。夕食には、その魚が刺身などの料理として並び、自分で釣った魚をその日に食べることができて生徒たちは非常に喜んだ。天草地方では、もてなしの意味を込めて訪問者の料理を大盛で出すので、その量の多さにも生徒たちは目を丸くした。

宿泊する家によっては食後に星空を観察したり、翌朝に潮の引いた浅磯から朝日の鑑賞に出かけたりした。

「天草の人は本当にみんないい人で良かった。生徒もこんなに他人に親切にされたことはなかったと思う。民泊や体験プログラムはコミュニケーション力を養成するのに最適だと考えている」と冨井教諭。

2日目は海上タクシーで御所浦島から同じ天草内の下島に移動。港に近いホテルアレグリアで昼食をとった後、コースごとに分かれて体験プログラムを実施した。

コースは①シーカヤック②イルカウォッチング体験とハクセンシオマネキ観察会③イルカウォッチング体験と天草四郎メモリアルホール見学④教会巡りと隠れキリシタンについて考える——の4つを設定。すべてのコースでアズレージョ制作も行った。

全体の約半数が希望したのがイルカウォッチングだ。神戸の中学生は、水族館にいて芸をするイルカしか見たことがないのが普通。生徒は船の周りに集まって来た、たくさんの野生のイルカの群れに感動していた。

イルカウォッチングで多くの観光客を呼び込んでくれるイルカだが、イルカによる漁業被害も甚大という説明を受ける。観光振興、漁業、自然保護など人間とイルカとの共生について考えさせられた。

この日は天草観光ホテル岬亭に宿泊する。

3日目は、海洋実習として天草の海でペーロン競争を体験した。各クラス3班に分かれて9艇に乗船。クラス対抗で、3艇ずつ競争した。各回の1位の船で決勝戦も行い、大いに盛り上がった。昼食の後、バスで博多駅に移動して、新幹線で神戸に戻った。

冨井教諭は「修学旅行では、このプログラムを実施したから、これが習得できたということではなく、民泊や体験プログラムの中で、人とのふれあいやさまざまな経験を通じて、生徒たちのコミュニケーション能力が向上したことが最大の成果だ。これから生徒たちが中学を卒業し、高校や大学、社会に進んでいくなかで、ふと今回の経験を思い出して、他人にやさしくできたり、協力できたりする大人になってもらえればなお良い」と話している。

「高校教育特集2011春号」は、来年4月2日号掲載予定です。

編集内容（予定）①今、教育旅行に求められている内容とは（教育旅行の現実と理想。単なる体験で終わらない、教育効果のある体験学習プログラム。成果をどこで測定するか、など）②ユニークな教育旅行の事例（高校の協力を得て担当教諭や参加生徒の声を聞く）③体験型修学旅行で注目される受け入れ地域（旅行地としての地域性とそこでの体験プログラムを紹介）④教育旅行に関する調査データなど

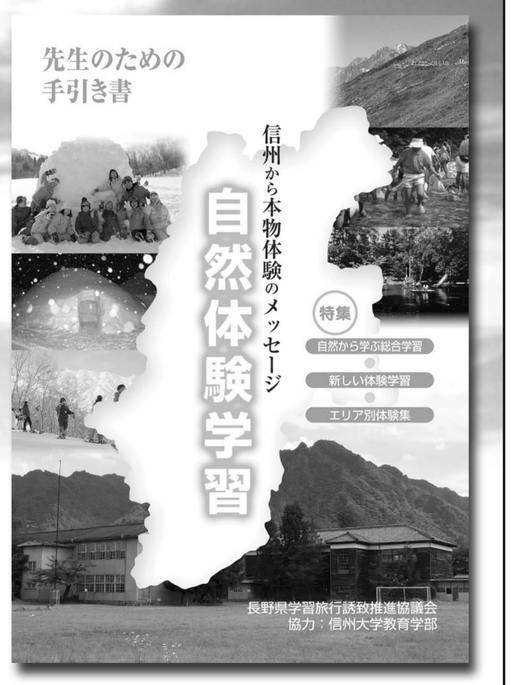
※中学校教育旅行特集同様、全国の公立・私立高校5,000校にも配布します。

問い合わせ先、㈱観光経済新聞社・教育旅行担当
〒110-0008　東京都台東区池之端2−7−17井門池之端ビル　TEL.03−3827−9800　FAX.03−3827−9730　info@kankokeizai.com

むかし体験が呼んでいる！
無料遊びは…竹馬、ストラックアウト、羽根つきなど…
体験色々!!機織、紙すき、草木染め、木工、水引、陶芸など…
まゆでの人形づくり

機織り　陶芸　紙すき

たくさん遊び
たくさん体験し
ゆっくり温泉へ！
水晶山温泉
伊那谷の伝統文化を体験できます！
詳しくはホームページを
http://kefir-land.jp
TEL.0265-28-1755
FAX.0265-28-1766
南信州ケフィアランド伊那谷道中
〒395-0243　長野県飯田市箱川386-1

年間2700校以上にご来県いただいている
信州・長野県への学習旅行は
「長野県学習旅行誘致推進協議会」は、信州・長野県観光協会内に事務局を置き、国内外を問わず、長野県への学習旅行のご案内をさせていただいております。下記まで資料請求等お問合せをお待ちしております。


お問合せ・資料請求先
長野県学習旅行誘致推進協議会 事務局（担当:中澤）
TEL:026-238-9670　FAX:026-232-3220
E-mail:gakushu@nagano-tabi.net
http://www.naganoken-gakushuryoko.net
〒380-8570（住所不要です）
長野県庁東庁舎2階 信州・長野県観光協会内
上記冊子「先生のための手引き書」（ワークシートつき、全32頁）を無料にて差し上げています。